＜ 学会発表渡航支援報告書 ＞

<table>
<tr><td rowspan="2">（フリガナ）
氏　名</td><td rowspan="2">松谷（マツタニ）　実のり（ミノリ）</td><td colspan="2">所属</td></tr>
<tr><td colspan="2">京都大学大学院文学研究科 博士後期課程</td></tr>
<tr><td>発表題名</td><td colspan="3">Career building in the process of migration: Contemporary Japanese youth emigrants to China</td></tr>
<tr><td>会議名</td><td colspan="3">Second ISA Forum of Sociology</td></tr>
<tr><td>開催地</td><td>Buenos Aires</td><td>参加期間</td><td>2012 年 8 月 1 日～8 月 4 日</td></tr>
<tr><td colspan="4">報告者は Second ISA Forum に参加し、8 月 1 日に RC34 (Sociology of Youth) Round Table Session 1: Youth and work in a globalized world にて口頭報告を行った。このセッションは応募者多数であったことを勘案して Round Table Session として組み直されたものの一つである。セッションの報告者は 4 名、各自の持ち時間は 15 分、割り当ての教室は小さ目の部屋で、参加者はやや少なめであり、報告者とフロアの距離が近い、アットホームな雰囲気の中での報告となった。報告者の口頭報告に続いて、インドのファストフードカルチャーにおけるグローバリゼーションの若者への影響についての報告（英語）、メキシコにおける若者の起業についての報告（スペイン語）、日本の観光業における季節労働者としての若者の社会的機能についての報告（英語）が行われた。報告には英語のものとスペイン語のものとがあったが、基本言語は英語で、スペイン語報告者からは英語のレジュメが配られ、適宜会場内で個人的な通訳が入るなどしたため、コミュニケーション上の問題はそれほど生じなかった。
報告者は、中国（上海）において現地採用就労を行う若者の国際移動を伴う労働の実態についての報告を行った。これに対し、フロアからは結婚の移住選択に対する影響についての質問があった。時間の都合上、移住前は多くが未婚者であること、移住後の結婚の相手やタイミングについて等の概観をざっと述べるに終わったが、若者問題、移民問題を扱う際の結婚の重要性について再確認する機会となった。本セッションでは、各報告が、若者を軸にグローバリゼーション、グローバルとローカル、移動といったキータームを共通点として有しており、本来ならばこれらをベースとした議論が交わされるはずであった。しかしながら教室変更のトラブルで開始時間が遅れ、飛び入りの報告者が最後に口頭報告を行ったため、ディスカッションの時間がほとんど取れなかったことが非常に残念であった。
なお、distributed paper 採用であった RC30(Sociology of Work): Work and immigration（8 月 3 日）においても、当日の報告者の参加率が低かったため、急遽口頭報告を行った。こちらはディスカッションの時間が十分に取られたが、クリティカルな質疑の応酬というよりも、各報告の方向性を尊重するような、全体として和やかなセッションであった。
このほか、関連する部会の各セッションに参加したが、部会ごとの雰囲気の違いや報告方法の違いなどを学ぶ機会となった。またセッションの合間に他大学の若手研究者と交流することもでき、よい刺激を受けた。</td></tr>
</table>